

国営アルプスあづみの公園 管理運営プログラム (案)



令和3年5月

国土交通省 関東地方整備局

長野国道事務所

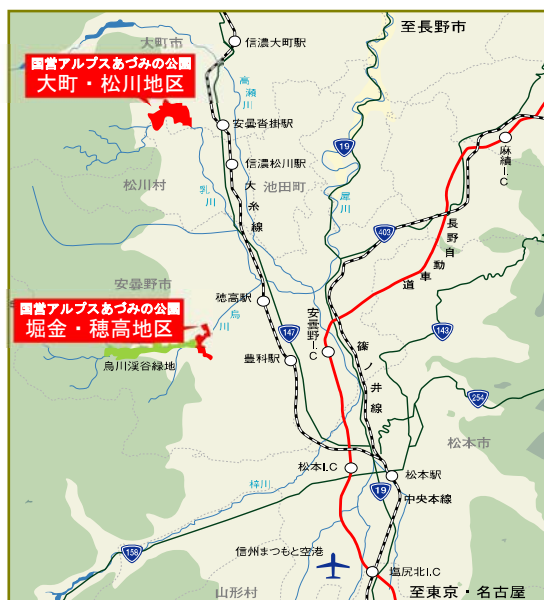
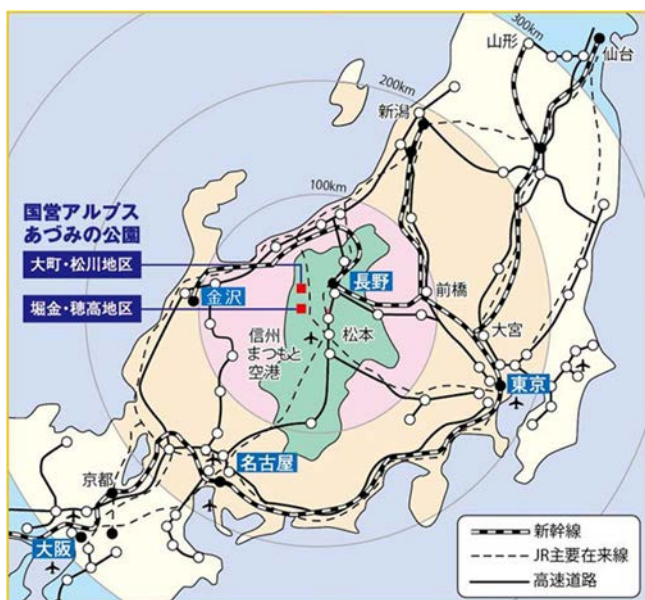
目 次

1. 全体計画及び開園状況	1
(1) 全体計画	1
(2) 供用の経緯	2
(3) 地区別概要	3
(4) 年度別利用者数	5
(5) ストック効果	6
2. 令和7年度までの管理運営の方針	8
(1) 今後5年間の管理運営の重点事項	8
(2) 管理運営方針	10
3. 事業の効果	12

1. 全体計画及び開園状況

(1) 全体計画

国営アルプスあづみの公園は、長野県北西部の安曇野地域に位置し、堀金・穂高地区（100ha）と大町・松川地区（253ha）の2地区（合計 353ha）の2つの地区からなる国営公園です。首都圏と中京圏のほぼ中間に位置し、鉄道や高速道路でも約3時間の距離にあることから、長野県内をはじめ、首都圏、中京圏、さらに近畿圏と広く三大都市圏の人々の多様なレクリエーションニーズに対応した公園を目的とし、「自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現」を基本理念に、自然や地域の文化とのふれあいなど幅広い魅力ある活動空間を提供する公園として整備を進め、平成28年6月に全園開園しました。



大町・松川地区（253ha）
（長野県大町市、北安曇郡松川村）

堀金・穂高地区（100ha）
（長野県安曇野市）



(2) 供用の経緯

平成2年度に都市計画決定を行い、平成10年度より両地区の工事着手、平成16年7月24日に堀金・穂高地区田園文化ゾーンの一部(約27ha)、平成21年7月18日に大町・松川地区のセンターゾーン他2ゾーン(約79ha)を開園しました。

その後、整備を進め、平成25年に大町・松川地区の溪流レクリエーションゾーン(約25ha)、平成26年に堀金・穂高地区の田園文化ゾーン(約17ha)を全面開園し、平成28年6月18日に大町・松川地区及び堀金・穂高地区の未開園区域を含む全園の開園に至りました。

国営アルプスあづみの公園のこれまでの経緯

年 月 日	項 目	開園面積
平成 2年11月19日	都市計画決定	
平成 2年 4月	事業着手	
平成 4年 2月 5日	用地買収着手	
平成10年10月22日	起工式	
平成16年 7月24日	堀金・穂高地区 田園文化ゾーン一部開園	約27ha
平成21年 7月18日	大町・松川地区 センターゾーン他一部開園	約106ha
平成25年 9月26日	大町・松川地区 溪流レクリエーションゾーン開園	約131ha
平成26年 4月26日	堀金・穂高地区 田園文化ゾーン一部開園	約148ha
平成28年 6月18日	全園開園	約353ha



平成16年7月 堀金・穂高地区開園



平成21年7月 大町・松川地区開園



平成28年6月 全園開園 (左:堀金・穂高地区里山文化ゾーン 右:大町・松川地区自然体験ゾーン)



(3) 地区別概要

1) 堀金・穂高地区

堀金・穂高地区は、常念岳・蝶ヶ岳を源流とする烏川沿いに位置する約 100ha のエリアで、常念岳を背に広がる耕作地跡を利用した広場や池、山麓の棚田跡地を活かし、「田園文化ゾーン」と「里山文化ゾーン」で構成されています。

里山文化ゾーン

安曇野に伝わる懐かしい里山風景を再現しながら、人の生業の中で育まれてきた生き物の保全、技術・文化などの体験機会の提供を通じて、安曇野の風土の継承につなげていくゾーン

田園文化ゾーン

安曇野地域の田舎風景や常念岳を中心とするアルプスの山岳景観を楽しみながら、豊かな水と大地が育んだ自然と文化にふれることができるゾーン

里山の森

より多様な生き物を育む森づくりに取り組む区域



水車小屋

戦前から維持されている耕作地の形状を保全し、昔ながらの風景を再現



ガイドセンター

総合インフォメーションとして公園の情報や安曇野の自然・文化・地域情報などを紹介する公園入り口の施設



あづみ学校

体験学習活動の拠点として地域の文化や木工作も体験できる



子供の森

安曇野に伝わる民話をモチーフに7基の木製遊具や小さな丘などスレチックが楽しめる森



里山の森

棚田

水車小屋

体験学習農園

ガイドセンター

あづみの学校

だんだん池

段々原っぱ

子供の森

棚田

棚田から眺める安曇野の風景と景観作物による季節の花を楽しむことができる



体験学習農園

里山で育まれた技能・技術や文化を再現・蓄積し、プログラムの実施等を通じて体験・学習を提供



だんだん池

北アルプスからの豊富な水が段々に広がる池に注がれます。夏には水遊び場として開放



段々原っぱ

段々に広がる原っぱ。春から秋にかけては季節の花が楽しめるほか、様々なレクリエーションにも利用が可能



2) 大町・松川地区

大町・松川地区は、餓鬼岳を源流とする乳川沿いに位置する約 235ha のエリアで、アカマツを中心とした森林が広がる自然豊かな環境を活かし、「センターゾーン」「林間レクリエーションゾーン」「保全ゾーン」「溪流レクリエーションゾーン」「自然体験ゾーン」とそれぞれの特長を活かした5つのエリアで構成されています。

自然体験ゾーン

北アルプスから流れ出る清冽な溪流やそこに育まれた森林の魅力と楽しみを満喫できるゾーン

センターゾーン

公園の入り口に位置し、豊かな自然環境に楽しみながらふれあうことができるゾーン

リフレッシュの森
広大な樹林でのノルディックウォークや自然観察が体験できる



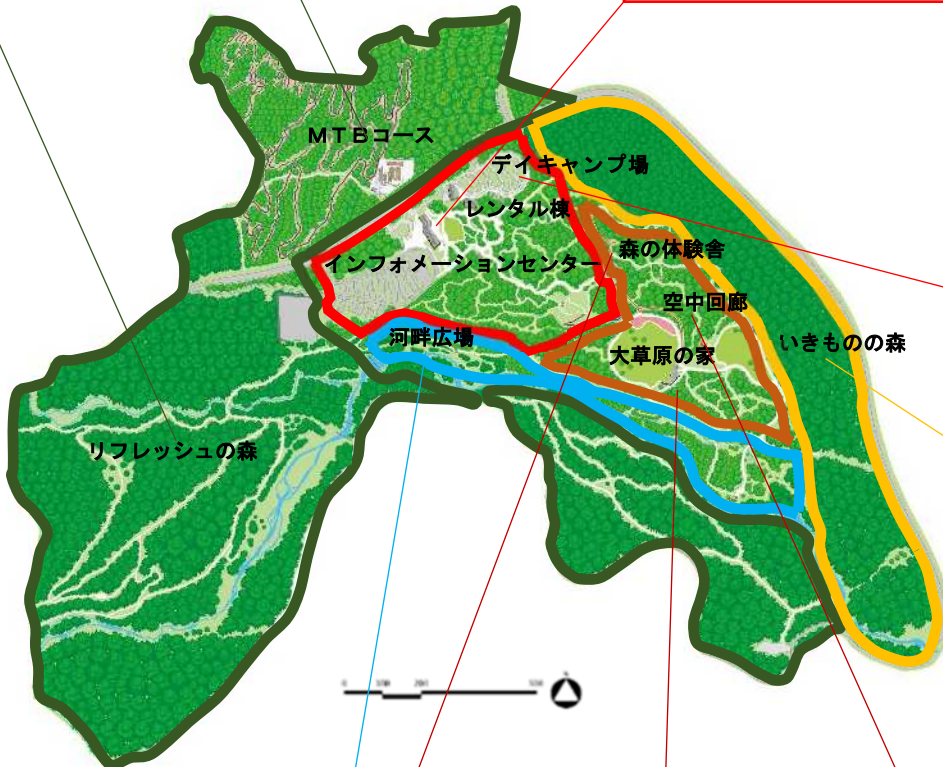
MTBコース
樹林と起伏を利用した本格的なマウンテンバイクが体験できる



インフォメーションセンター
園内の情報や公園の魅力伝える情報展示など、公園の入り口となる施設



デイキャンプ場
日帰りキャンプが体験できる施設



保全ゾーン
豊かな生き物の生息環境となっている森林を保全するゾーン

いきものの森
普段は生き物を守るために入園を制限している。環境学習などに活用



溪流レクリエーションゾーン
北アルプスから流れる溪流や水辺の魅力と楽しみを満喫できるゾーン

河畔広場
公園内を流れる乳川を活用した川遊びや観察教室が体験できる



森の体験舎
木工作や料理などの体験できる施設



大草原の家
ネットの遊具を屋内に整備し建物全体を遊具とした施設



林間レクリエーションゾーン
北アルプス山麓の自然の中で様々な体験活動ができるゾーン

空中回廊
木々の間を高い目線で散策できる園路

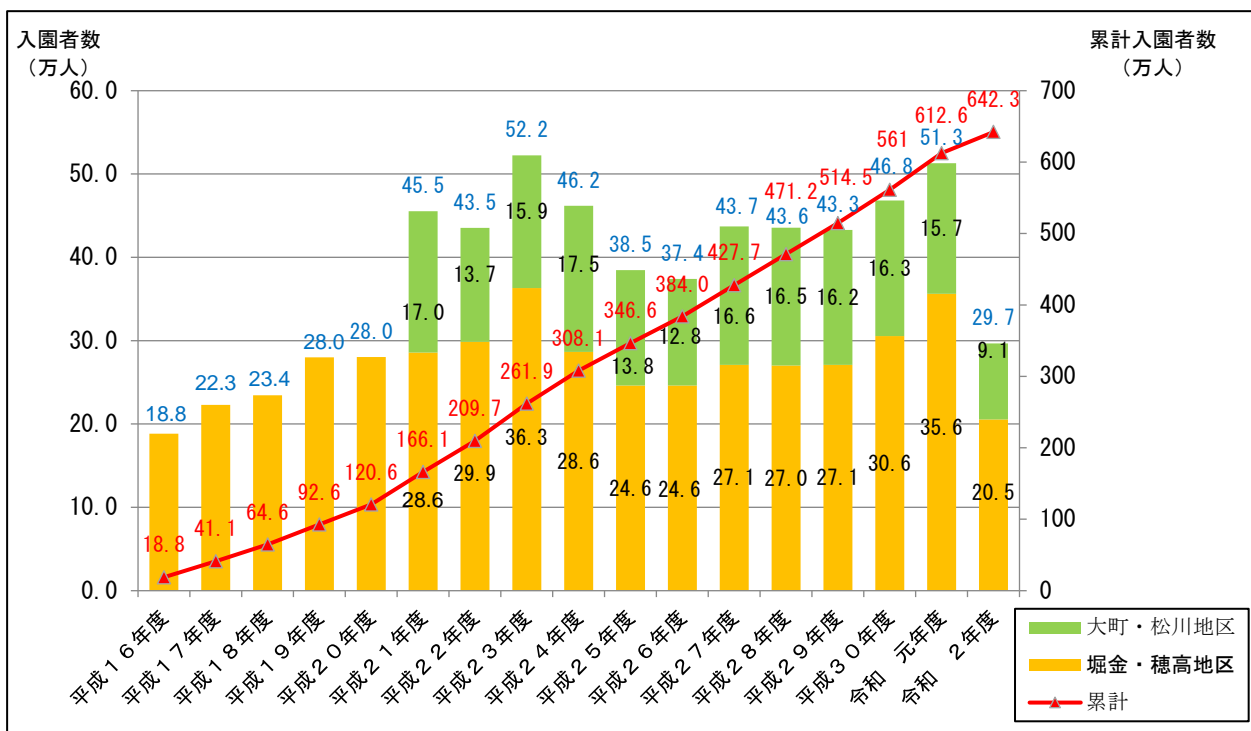


(4) 年度別利用者数

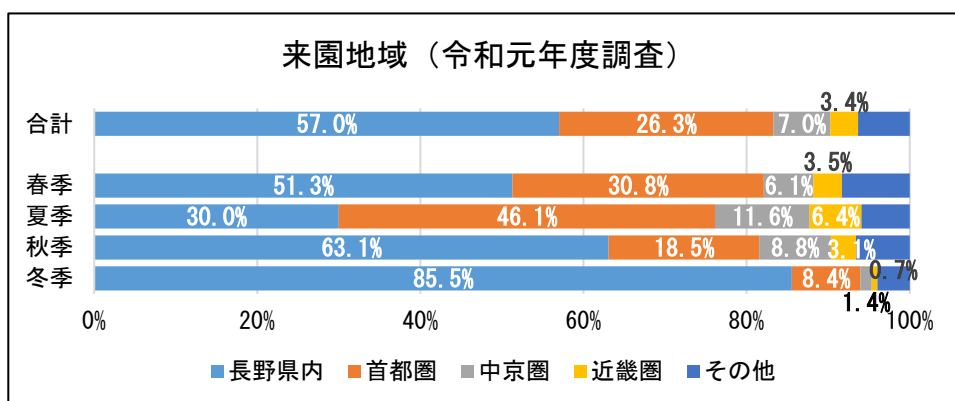
平成16年に第1期開園し、平成26年に追加開園した堀金・穂高地区では、年間25～30万人、大町・松川地区では毎年15万人、両地区で年間約50万人の皆様にご利用いただいています。

平成28年度には2地区の全域が開園し、平成29年には累計入園者数が500万人達成、平成31年(令和元年)春には都市緑化信州フェアのサブ会場として位置づけられ、同年度は51万人の来園者数を記録しました。

平成16年の開園から令和2年度までの入園者数は、約642万人となっています。



また、長野県内の来園者が概ね半数を占めていますが、季節により首都圏や中京圏、近畿圏などからの広域来園が多いことが特徴となっており、外国人入園者数も増えてきています。



外国人入園者数

	H29年度	H30年度	R1年度
入園者数	370人	404人	464人

(5) ストック効果

1) 景観の形成と保全

国営アルプスあづみの公園が持つ「山岳の麓の景観」を活かし、樹林空間や広場空間を活用した景観の形成や保全を行っています。

北アルプスを源流とする河川を活かした樹林空間の創出、もともとの段々田んぼの地形を活かし、北アルプス「常念岳」を背景にしたチューリップやコスモスによる花空間を創出しています。



河川(横溝堰)を活用した樹林空間の創出



北アルプス「常念岳」を背景にしたチューリップ

2) 環境の維持・生態系保全

北アルプスの山岳と里地の中の里山に位置した国営アルプスあづみの公園は、環境の維持や生態系保全に配慮しながら整備を行ってきました。

準絶滅危惧種であるオオルリシジミに対して、地域と連携した保護活動に取り組み、生物生育環境(サンクチュアリ)づくりや環境教育等活動、そして、動植物の生息調査も行いながら、公園の運営を行っています。



公園内で確認される「オオルリシジミ」



自然観察会

3) 地域コミュニティの形成

国営アルプスあづみの公園では年間を通じて様々なイベントが行われています。

その中でも地域と連携したイベントとして毎年春には約3万人が来場する「あづみの早春賦音楽祭」や、大町市や松川村等と共同で開催される「北アルプスフェア」、また、堀金・穂高地区と大町・松川地区を結んだコースで約5千人が参加する自転車イベント「アルプスあづみのセンチュリーライド」などが継続的に行われています。



平成16年から開催されている「あづみの早春賦音楽祭」



約1万人が来場する「北アルプスフェア」



リレーマラソン



両地区をつなぐ自転車イベント「センチュリーライド」

4) 観光振興への寄与

国営アルプスあづみの公園での様々なイベントや修景は、公園の利用満足だけではなく、地域への観光客の誘引にも寄与しています。

春や秋の大型イベントや花修景、夏の河川を活用したイベント、冬のイルミネーションなど季節感を盛り込んだ様々なイベントを年間を通して開催することで、近隣地域のみならず首都圏・中京圏など県外からも多くの来園者を迎えています。

また、年間を通しての修学旅行やツアー等の団体利用も多く、地域への周遊にも貢献しています。



春：チューリップ

秋：コスモス

夏：川遊び

冬：イルミネーション

公園利用に関する満足度

	満足	まあまあ満足	普通	やや不満	不満
R1 年度	65.8%	27.1%	5.3%	1.0%	0.3%

令和元年度の団体利用状況

団体種別	団体数	団体人数
学校等	67 団体	5,549 人
ツアー	68 団体	2,485 人
一般	277 団体	18,540 人

※「一般」とは、15人以上で学校・ツアー以外の団体

5) 災害時の機能発揮

地震等大規模災害発生時には広大な面積を持つ都市公園は防災機能の一翼を担います。

平成 25 年には本公園が所在する大町市との間で「災害時における国営アルプスあづみの公園来園中の観光客等への支援に関する協定書」を締結。自治体と協力した来園観光客の帰宅困難者支援が可能となります。

平成 26 年に陸上自衛隊と「災害時等の国営公園の専用に関する協定」を締結し、国営アルプスあづみの公園は災害発生時の指揮所や資材集積等の災害時活動の拠点として機能することとなります。

大規模災害時には公園来園者はもとより公園周辺地域への安心が提供されます。



帰宅困難者受け入れ可能施設
(大町・松川地区 レンタル棟)



災害時活動拠点のイメージ
(平成 16 年越後地震時の国営越後丘陵公園)

2. 令和7年度までの管理運営の方針

(1) 今後5年間の管理運営の重点事項

国営アルプスあづみの公園は、「自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現」を基本理念に整備を進め、平成16年の開園から、累計600万人以上、年間約50万人の方々にご利用いただくなど、地域はもとより遠方の皆様からも親しまれる公園となりました。

開園から15年以上経過し、一部施設では経年劣化が進み、また、公園利用者からは公園利用に関するご意見やご要望をいただいていることから、施設の改修等による魅力向上や、より安心して安全な公園の運営が求められています。

また、近年当地域では外国人観光客の増加など観光面における大きな変化も現れています。

このような状況を踏まえ、本公園の持つ自然・景観・交流・体験・学習などのポテンシャルを活用し更なる魅力向上を図るため、下記の事項を中心に管理運営に取り組んでまいります。

1) 安曇野の自然や地域の資源を活かした利用の促進、情報の発信

北アルプスの山岳と里山それぞれの特性を最大限に活用し、季節の花による景観づくり、川や雪を利用したイベントやアクティビティなど、公園の魅力を提供し満足度の向上に努めます。また、地域の魅力の発信や地域への観光回遊にも繋がっている周辺自治体等との共同イベントの開催など、より一層の連携強化を図ります。

さらには近年の外国人観光客の増加に対応したホームページや公園内の案内看板などの情報ツールの改修を行い、誰もが楽しめる情報の発信を進めてまいります。

2) 自然資源の保全と活用、継承

国営アルプスあづみの公園は自然の豊かさを有する一方、多くの団体との連携により、環境の保全・啓発のプログラム等の運営が行われてきました。

今までに培ってきた地域との連携を更に強化し、貴重種などの保護や環境教育プログラムの実施、地域の文化や農業技術継承、また、再生エネルギーの活用などの取り組みを進めてまいります。

3) 災害に備えた公園へ

災害に備え、また、公園が持つ災害対応機能を最大限発揮できるよう、非常電源設備などの施設整備を進め、引き続き地域との連携の強化を図ってまいります。

4) 誰もが安心して利用できる公園の提供

国営アルプスあづみの公園は山岳の麓に位置していることから大型哺乳類等との共存（特にクマ・サル）が重要課題となっています。「適切な棲み分け」を図るための樹林管理や施設の改修を行い、利用者の安全確保を更に進めます。また、各施設の経年劣化については日

常的な点検に加え、誰もが安心して公園が利用できるよう修繕・更新し、安全・安心して利用いただけるよう長寿命化の取り組みやバリアフリーへの対応を進めてまいります。

(2) 管理運営方針

重点事項をふまえ、以下の方針の下で管理運営に取り組みます。

基本方針 1. 安曇野の資源の活用と魅力の発信を強化

- 山岳や田園の景観を活かしたナノハナやコスモスなどの花修景や雪遊びなどの四季を感じる楽しみを引き続き提供します。
- 各種 SNS によるイベントや花開きの情報などのタイムリーな情報発信や、ドローン撮影による空中浮遊をしているような疑似体験ができる動画コンテンツ等の発信により、魅力的な公園情報の発信・話題の提供を強化します。
- 見どころや花見頃などの公園の情報、また、周辺観光施設への回遊の情報発信など、情報展示施設の更新・改修を行います。
- 外国人来園者へのツールとして、日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語によるインバウンドに対応した案内板やホームページなどの改修を行います。



棚田の地形を活かしたナノハナ



SNS でのドローン動画の発信



ガイドセンター（堀金・穂高地区）やインフォメーションセンター（大町・、松川地区）などの公園入口施設での公園魅力情報の発信

基本方針 2. 国営アルプスあづみの公園を拠点に地域との連携を強化し、地域周遊を促進

- 育ててきた地域との連携イベントや、各種健康づくりやネイチャースポーツの場等としての利用・活用をさらに促進し、地元自治体や音楽・スポーツなどの各種団体との連携を強化します。
- 2 日券・旅行商品団体割引・子ども入園料無料化を活用し、地域の観光関係者と連携することにより、公園はもとより安曇野をはじめとした周辺地域への来訪・回遊をさらに促します。



早春賦音楽祭(春:堀金穂高地区)



北アルプスフェア(秋:大町・松川地区)



スポーツイベント

基本方針 3. 生物多様性の保全、環境教育、体験プログラム等を継続し、地域財産の魅力を発信

- オオルリシジミの保護や生息環境の保全を継続します。
- 稲作体験や天蚕活動など、地域の文化や農業技術を体験・学習・伝承するプログラムの提供に引き続き取り組みます。
- 公園内で活動するボランティア団体等と連携を更に強化し、公園や地域の魅力発信を進めます。
- 大町・松川地区では、民間企業と連携を図りながら樹林環境の保全や環境教育などのプログラムの提供を行います。
- 太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用、省エネ設備の導入等により、環境負荷の低減を進めます。



公園ボランティアによる農業体験指導



天蚕の体験（繭の収穫）



馬耕の再現

基本方針 4. 誰もが快適で安心な公園に

- 園路の拡幅等、多客時や乳幼児連れの方、また車椅子の方等も快適に利用できるよう施設のバリアフリー化や券売機のチケットレス化などによる利便性向上を図り、快適な利用を進めます。
- 一部施設で設置されている非常用電源設備ですが、引き続き整備を進め、公園の災害時対応力をより強化します。
- 大型野生動物との接触を防ぐため、間伐や下草刈りなどの適切な樹林管理や公園外周の既存電気柵の改良による侵入防止対策を強化に加え、センサー式カメラや AI などの ICT 技術等を活用したツキノワグマ侵入防止対策を進め、来園者の安全確保を進めます。
- 開園前や開園時間中の巡回、園路や建物・遊具などの定期的な点検を行い、老朽化した施設の予防的保全や計画的な補修を進めます。



ゆったりと散策できる園路



非常用電源設備



公園周辺で確認されるツキノワグマ

3. 事業の効果

令和7年度までの間に上記施策を実施することにより、次のような事業効果が見込まれ、ストック効果をより一層発揮します。

1) 地域の風景や文化の保全・継承

国営アルプスあづみの公園の景観にもなっている田園風景や里山風景を保全・活用し、地域との協働を通じたオオルリシジミなどの希少生物の生育環境の保全や農業や生活などの伝統・文化に触れる機会を提供することで、公園周辺では少なくなっている貴重な資源が保全され、さらに地域が持つ豊かで貴重な伝統等財産の継承が行われます。

2) 安全・安心な空間の確保と地域防災への貢献

バリアフリー化などの取り組みを進めることで、多くの方々がより公園を楽しみ親しんでいただけます。

野生動物への対応や施設の日常の点検などの維持管理を進めることで、公園利用者への安全・安心な公園利用が提供されます。

また、災害時に対応した施設を整備することで、来園者並びに地域へ安心・安全が提供されます。

3) 地域活性化・地域振興への貢献

公園と地域が連携し多様なプログラムの提供やインバウンド対応、宿泊施設や周辺観光施設との連携によるツアー構築などを行うことにより、安曇野をはじめ長野県内での周遊促進や宿泊による地域活性化が期待されます。

公園内外でのイベントの連携を行うことで、地域が持つ豊かな魅力を今まで以上に発信することができます。

また、民間企業との連携による樹林管理や環境教育プログラムの展開を行うことにより、より範囲の広い層への公園の魅力発信が可能となります。

4) 利用者満足度の向上

上記内容の効果が発揮されることにより、公園利用者の満足度がさらに向上します。

なお、本プログラムは、事業の進捗状況等をふまえ、適宜見直しをしていくものです。